

# 【絵本】デージー作製手順書

作成： 2020年7月

順番	セクションの見出し	録音する内容
1	(書名、著者名+「著」または「ぶん」、あれば作家名+「え」、訳者名+「訳」等 64 文字以内)	(書名、著者名+「著」または「ぶん」、あれば作家名+「え」、訳者名+「訳」等。全部で1フレーズになるように、編集時に結合する。) 録音時間、約(～時間～分。あとで入れる。)
2	著作権ガイド	この図書は、著作権法に基づき、障害や高齢等の理由で通常の活字による読書が困難な人のために、音訳グループやまびこが製作したものです。
3	録音図書凡例	<b>録音図書凡例。</b> (「この図書は1レベルです。絵や写真の初めと終わりにはグループチェックをしています。ページ付けは原本と違う場合があります。」等、編集担当と相談して入れる。) <b>録音図書凡例、終わり。</b>
4	表紙 ※作業中は校正や編集時に確認しやすいように、「表紙」「カバー」「表紙見返し」等の別セクションにしている。納品前には全国基準にあわせ、右の部分をまとめて1つの「表紙」セクションとして編集する。	<b>表紙。説明。</b> (説明内容。簡単に大きさも説明する。例:「縦23cm、横25cmの少し横長の大判図書。」) <b>裏表紙。説明。</b> (説明内容) <b>表紙、終わり。</b> <b>カバー。説明。</b> (説明内容。表紙にない情報が裏に当たる部分等に書かれていれば読む。) <b>カバー、終わり。</b> <b>カバー折り返し部分より。</b> (折り返し部分に書かれている内容をそのまま読む。折り返し部分に文章のみならば「説明」は不要。絵や写真があれば、その説明を入れる。) <b>カバー折り返し部分、終わり。</b> ※折り返し部分に作者の紹介がある場合は、「作者の紹介」という独立したセクションとして、折り返し部分の後に入れる。 <b>「作者の紹介。カバー折り返し部分より。(内容) 作者の紹介、終わり。」</b> <b>表紙見返し。説明。</b> (説明内容) <b>裏表紙見返し。説明。</b> (説明内容) <b>見返し、終わり。</b> ※内容的に裏表紙見返し等がネタバレになるなどの理由があれば、編集の際に裏表紙見返し等を独立のセクションにして本文の後に入れても良い。
5	帯	<b>帯より。</b> (帯に書かれている内容をそのまま読む。絵や写真があれば、その説明を入れる。) <b>帯、終わり。</b>
6	標題紙	(標題紙に書かれた内容をそのまま読む。挿絵があれば、絵の説明を入れる。)
7	本文の最初の1センテンス ※1フレーズになるように編集時に結合、64文字以内	(本文をそのまま読む。) <b>絵。説明。</b> (説明内容) <b>絵、終わり。</b> ※読みの注意: 利用者が聞く機械で絵の説明を自動スキップする場合の、間の長さのバランスを確保するため、本文のみをまとめて読み、そのあとに絵の説明をまとめて読む。編集で挿入。絵の説明部分は、細大漏らさず詳細にという事ではなく、場面場面の文章説明や言葉以外の何を表現したい絵なのか、作家の意をくみ取るつもりで説明。
8	作者の紹介	<b>作者の紹介。</b> (作者の紹介をそのまま読む。) <b>作者の紹介、終わり。</b>
9	奥付	<b>奥付。</b> (奥付の内容をそのまま読む。価格がここに書かれていなくても、カバー等に書かれている価格を奥付の最後に入れて読む。) <b>奥付、終わり。</b>
10	終わりアナウンス	以上で(書名)を終わります。製作完了(20～年～月)。製作は、音訳グループやまびこでした。

**全国基準は「原則書いてあるものは全て原本にできる限り忠実に読む」が基本です。**

**\* 音訳しなくてもよいものの例**（[「録音（DAISY）資料製作に関する全国基準」](#)より抜粋）

原則として「**原本にあるすべてを音訳する**」ですが、製作施設の判断により以下にあげるようなものは省略することができる。

- （１）背文字（表紙と重複する場合）
- （２）表紙等にある出版社の巻表示、あ-21-40等の記号類
- （３）裏表紙のバーコード・ISBN・書籍JANコード等（奥付等に同じものがある場合）
- （４）翻訳書の原書名等（英語以外で音訳できない場合、原書名等があること自体は伝える）
- （５）帯の広告等で不要と思われるもの
- （６）以下に例示するようなもの
  - 「Printed in Japan」「乱丁本はお取り換えします」
  - 「ISBNの後のCO195 Y638E、のような数字記号 ISBNの下のコード。  
□ゴ。
- （７）小さい文字等で書かれた出版社からの膨大な広告（広告があることは伝える）

**※上記は、本の形態やどこから依頼されて制作するかによって異なります。  
が、最終国会図書館を目指すのなら「すべてを読む」が基本です。**